



# YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

RIテーマ「奉仕を通じて平和を」Peace Through Service

2012-13年度 RI会長／田中作次 RI.D2590ガバナー／露木雄二 横浜旭RC会長／山崎良三

国際ロータリー第2590地区

## 横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-2 後藤ビル2F  
TEL.045-365-3273  
FAX.045-365-3132  
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp  
〒241-0821

例会場 二俣川相鉄ライフ4Fコミュニティサロン  
例会日 毎週水曜日／12時30分～1時30分



2013年2月27日 第2093回例会 VOL. 44 No. 32

- 司 会 副SAA 増田嘉一郎
- 開会点鐘 会 長 山崎 良三
- 齊 唱 それでこそロータリー  
SL 五十嵐 正

### ■出席報告

会 員 数	34名	本日の出席数	25名
本日の出席率	86.21%	修正出席率	100%

### ■本日の欠席者

内田、斎藤、関口、松本

### ■他クラブ出席者

青木、安藤公一、千葉、新川（岩沼 RC）  
斎藤、佐藤（地区）二宮（横浜鶴峰 RC）  
福村（横浜戸塚 RC）  
関口、漆原（横浜鶴峰 RC）

### ■皆出席者表彰



二宮 登会員 43年

### ■会長報告

岩沼 RC 友好クラブ提携による調印式に千葉、安藤、青木、新川さんの4名の方々に行って頂きました。私は所用で出席出来ませんでした。申し訳有りません。

次年度会長の安藤公一さんに事を託しました。訪問状況を安藤さんよろしくお願いいたします。

### ○地区関係

1) 旭区チャリティゴルフ大会

開催日 平成25年5月13日

場 所 戸塚カントリークラブ 東コース

募集人数 160人

参加費 20,000円

\*プレー費、カート、昼食込

申し込み期限 3/11～4/15

### ■幹事報告

例会臨時変更のお知らせ

○大和ロータリークラブ

日時 3月11日(月)→夜間移動例会

51回創立記念例会

### ■岩沼 RC との友好クラブ締結調印式

出席報告 千葉 和裕

2月26日(火)安藤公一会長エレクト、新川理事、青木幹事、千葉の4名で友好クラブ締結調印式に出席するために、第2520地区岩沼 RC の例会に出席して参りました。

当日は、会場のレイアウト、セレモニー等、岩沼 RC の皆様の取り計らいで緊張感のある素

晴らしい舞台での演出となりました。

調印後、安藤エレクトより山崎会長のお祝いのメッセージと安藤エレクトの挨拶を発表されたのち、青木幹事、新川理事と発表が続きました。

この友好クラブの締結内容には特に細かな決まり事はありません、お互い、気楽な気持ちでこれからも長いお付き合いをしましょうと言うのが岩沼 RC の皆様からの要望でした。

例会終了後、被災地の見学にご案内頂き、あらためて復興の遅れを痛感致しました。今回初めて被災地入りした安藤エレクトの「来なきゃわからないな」の一言が印象的でした。その後、懇親会を催して頂き、和気あいあいの中で一日を終える事が出来ました。

岩沼 RC の皆様より、「近々数名お邪魔します、多くの横浜旭の皆様のご来訪をおまちしております」とのお言葉を頂きました事を付け加えさせていただきます。



#### ■ニコニコ BOX (会員敬称略)

山崎 良三／①復興支援部会の岩沼 RC への訪問、寒い中大変お疲れ様でした。②吉野さんの卓話、楽しみにして居ります。

青木 邦弘／①昨日、岩沼 RC にて友好クラブ提携に立ち合いました。②吉野さん、卓話楽しみです。

吉野 寧訓／岩沼ロータリークラブに行かれた関係者の皆さん、ご苦労様です。なお今日はあたしの聞きずらい話を聞いて戴きます。

安藤 公一／①昨日、岩沼 RC に出向き友好クラブ盟約締結書に山崎会長の代理として、青木幹事、新川さん、千葉さんと行ってまいりました。②吉野さん卓話よろしくお願ひします。

倉本 宏昭／①吉野会員、卓話楽しみにしています。②岩沼 RC に行かれた皆様お疲れ様でした。

五十嵐 正／①岩沼への出張の皆様、ご苦労様でした。②吉野さん、本日の卓話楽しみにしております。

安藤 達雄／①仙台行きの皆さん、たいへんご苦労様でした。②吉野さんの卓話よろしくお願ひします。

福村 正／青木さん、安藤さん、千葉さん、新川さん、岩沼遠征ご苦労でした。

北澤 正浩／吉野さん卓話楽しみにしております。

太田 勝典／吉野さん、卓話楽しみです。

綿貫 守一／吉野さんの卓話楽しみにしています。

吉原 則光／大変寒い日の例会ですが、頑張りましょう。吉野さんの卓話大変楽しみです。よろしくお願ひします。

兵藤 哲夫／①千葉さん、岩沼訪問ごくろうさまでした。そして例会出席おみごと。②ミュージカル風レ・ミゼラブルをムービルでみてきました。良かった！是非鑑賞あれ③吉野さん卓話楽しみです。

市川 慎二／吉野さん、卓話とても楽しみです。

小嶋 宏樹／①吉野さん、卓話よろしくお願ひします。②岩沼 RC への訪問された方々ご苦労様でした。

#### ■卓話「米山さんとポールハリスさん」

吉野 寧訓

まず米山さんですが、皆さん御存じの様に、明治20年10月6日、数え年20才の時に米山家に入籍する迄は、和田梅吉さんである訳で、いきなり米山さんという言い方は間違いかも知れませんが、それならば、ポールハリスさんも正しくはポール・パーシー・ハリスさんなのに、今残されている伝記にはポール



(ファーストネーム)とか、ハリス(ラストネーム)と呼ばれております。

このお二人が深い因縁で結ばれています事は、お二人が同じ1868年生まれであることと、2番目は両親との縁が薄かったことだと思います。

1) 和田梅吉少年は慶應4年2月4日、江戸の芝田村町で大和高取藩の侍、和田竹造さんを父とし、三島神社の宮司の娘、うたさんを母として生まれました。

その父親も、梅吉少年が5才の時に43才で亡くなっております。

そこで母親のうたさんは、3人の子供を育てる為に高取を離れ、自分の実家のあった三島に移り住みました。

なお梅吉少年はその頃の学区制によれば、伊豆の国の三島小学校へ入るべき処でしたが、兄の和田栄次郎さんが駿河の国の長泉村で先生をしておりましたので、長泉村の映雪舎という小学校へ8才の時に入学しました。

処で小学校と言いましても校長と教師の二人が同じ教室で教えていた寺子屋みたいな学校でしたので、梅吉少年の学業成績が抜群であることが全校生徒に知れわたり、その神童ぶりが同じ村の名主、米山藤三郎さんの耳に入り、梅吉少年を是非養子に迎えたいと申し出しました。

この養子縁組の是非については、梅吉少年にはよく分かりませんでした。なにぶんにも米山藤三郎さんは村一番の大地主でしたので、母親のうたさんや、兄の栄次郎さんが自分の幸せの為だと言って説得しまして、梅吉少年は12才の時に米山家に移り住みました。

その後、映雪舎を卒業した梅吉少年は、旧幕府の学者達が教師を勤めておりました沼津兵学校の後身にあたる沼津中学へ、14才の時

に入学しましたが、そこで梅吉少年が知ったことは、勉強するならば一流の先生の居る東京へ行くしかないと言う事でしたので、養父の藤三郎さんの承諾が得られない事が分かるや否や、16才の折に無断で家出して東京へ走りました。

そのことが米山さんの一生の運命を決定づけるきっかけとなりましたが、それは後で触れる事としまして、東京へ行きついた梅吉少年は、常々大学の予備門に憧れをもっておりましたものの、兎に角、お金がない。そこで18才の折に東京府の吏員に就職しました。そして月給が貰える様になりますと、先ずした事は母親を芝の愛宕町の借家へ迎えいれました。

その時別れてから6年が経過しております。

その内に、渡米して日本人経営の福音会に入れば、働きながら大学へ通えることが分かり、19才の末に東京府を辞め、夜の内職を探して青山学院の前身の東京英和大学へ入学し、引き続いて福音英語学校へ転じました。

そして大学に入りたいと思う今迄のあせりや悩みが消えて、悠々たる心境になったせいも、梅吉少年は養父の上京する折にと定宿を調べておいて、進んで養父に会い、突然の家出のお詫びとアメリカ留学の切なる希望を話しました。藤三郎さんも梅吉少年の並々ならぬ向学心を知り、今迄のことを許す代わりに家督をついでもらいたいと申し出て、善は急げで渡米直前の明治20年10月6日、数えて20才の時に米山家に入籍が決まりました。

そして米山さんは全ての事を兄の栄次郎さんに委せて、明治21年早々にアメリカへ出発しました。従いまして渡米して8年間は帰国しませんでしたので、母親と別ればなれになったのは通算14年になります。

2) なおポールハリスさんの両親は二人ともに裕福な家庭に育ち、豊かな才能を持ちながら、親としては機能しませんでした。

どういう事かと言いますと、ポールさんの父親のジョージハリスは、祖父から買って貰ったドラッグストアの経営に失敗すると、祖父の援助を期待して家業を立て直す努力をしませんでした。母親のコーネリヤも金持ちの家に育ちましたので、財政が許さない時でも、日常雑事にメイドを雇うなど当然と思ってお

りました。

しかし、ポールさんの妹、ニーナメイが生まれるに及んで遂に家計は破綻してしまいました。そこで母親のコーネリヤはドラッグストアと家とを売却してその場を凌ぎ、間借りして幼いニーナメイを育てましたが、兄の5才のセシルと3才のポールさんは、40キロ離れた祖父母の家に預けられました。

それからどのくらいの月日が流れたかは資料がなく分かりませんが、祖父のハワードハリスは一人息子の窮状を見るに忍びず、今一度西部の小さな町、フェアヘイブンにポールの父親ジョージハリスの為にドラッグストアと家を買って与えました。そこでポールもセシルも両親のもとに帰ってきましたし、ポールの父親は仕事に励むかわら、植物が実る頃になりますと、じゃが芋・いちご・ぶどう等をあり余るほど栽培しました。また母親は母親で、ピアノのレッスンや教会の聖歌隊の指導などに専念し、今度は万事うまくいく様に思われました。

しかし暫くすると、父親のジョージハリスは一獲千金を狙うために発明に凝りだし、壁に掛けられる新聞かけ、ランプのほやの掃除機、ばれい諸用の殺虫剤、元気の出るサプリメントの作成にお金を注ぎ込むようになりました。母親は家庭を顧みず二人もメイドを雇い音楽に狂奔しましたので、しまいには食事にこと欠く有様でした。そこでポールを初め子供達は、もとの養い親のもとに返され、一家は離散しました。

ポールさんが両親のもとで暮らしたのはおそらく6～7年だったと思います。

3番目はお二人共に長年故郷を離れております。

1) 米山さんは渡米してサンフランシスコに身を寄せました。ここの福音会はメソジスト派の伝導機関で、教会の建物の隣には二階建の別館があり、下は講堂で、上は小さな部屋にしきられた座敷があつて、40人から50人位の日本の青年を収容して就職の便宜を計ったり、宗教的指導をしておりました。

そこで米山さんは英語を覚えるために、カリフォルニア州にあったベルモントアカデミーという高等学校へスクールボーイとして入学しました。このスクールボーイと云う学

僕は1週に1ドルが与えられ、部屋もあり、仕事の余暇には勉強も許されました。

ここで英語を習得し、次いで福音会の推薦でオハイオ州のウエスレアン大学とニューヨーク州のシラキウス大学で学んだと言われておりますが、どちらに何年いたか、何を学んだかなど確かな記録は残っておりません。

ところで、在米8年間ですが、言うまでもなく当時は英語国に送金する事は難しかったと思いますので、働きながら学費を貯め、学校へ通わねばならず、長い年月を要したとは思いますが、それにしても母親のうたさんや、婚約していた米山春子さんを8年も待たせたという事は私にとって驚きです。

2) 一方ポールハリスさんが、アイオワ大学の法学部を卒業する折に、その卒業記念行事として10年前に同じ大学を卒業した先輩の講演があり、「卒業生はどこか小さな町に行つて、5年位ぶらぶらして世間を見るのも賢明だ。そのあとで自分の選んだ都市へ行って弁護士を開業すればよい。」と言われたことに感銘をうけ、アメリカの東部、西部、南部はもとより、イギリスをはじめフランス、オランダ、ドイツ、イタリア、スイス、オーストリアなどに旅をしました。

それは何のためかといえば、色々な地方の人達の様々な行動の動機をさぐり出すことと、どんな生活が営まれているかを知りたかったのだとポールさんは述べております。

しかし、この決断は息をのむばかりの冒険と、勇気と、忍耐と、探究心を要するもので、5年の間あらゆる職業をこなしながら、ある時は飢えに苦しみ、野宿をし、山の中を何百マイルも歩き、害虫や疫病に悩ませられながらの旅でした。

ある伝記によれば、この5年間を愚行（馬鹿なことをした）の5年間をしておりますが、何が起きても挫けない執念の強さに敬服しております。

4番目はお二人共に運が良かったと思います。

1) まず、和田梅吉さんは養子縁組を前提として大地主の米山家に移り住みましたが、それだから中学校にまで進学できたのだと思います。何故ならば私が小学校を卒業する時に50数名のクラスでしたが、中学校へ入学した

のは4～5名しかいませんでした。これは入学試験が難しかったのではなく、当時はこの家も貧乏で、月謝を払う余裕がなかったからに他なりません。

しかも梅吉少年は中学校へ入れたから東京へ行けばよい先生がいると分かり、誰にも断らずに家出しましたが、それだから井上馨侯爵を岳父持つ藤田四郎さんに出会うことができ、三井銀行でも将来が拓けたのだと思います。

2) 一方、1896年ポールハリスさんがシカゴにやってきた時には、アメリカは全国的に不況下にありましたが、とりわけシカゴは博覧会に過剰投資をしたものの入場者が少なく、失業者は街に溢れ、市内の商店の多くは店を閉め、ホテルは軒並み空室となり、不正と汚職がまかり通っておりました。

おまけにこの頃アメリカの社会は南北戦争を契機に農業中心型の社会から商工業中心型社会に転換しつつあったので、南部の農業労働者が、荒れた農地を捨てて大挙してシカゴにやって来て、生きるための方便として詐欺行為をする者が多く、これを取締る破産法が施行されましたので、ポールハリス事務所はやがて多忙となりました。

しかしシカゴの様な過密都市になりますと、「隣は何をする人ぞ」でどうも他人と心が通えあえないし、心の渇きを癒して暮らしたい思いがポールさんにありましたので、心を許せる友人3人と1905年2月23日、お互いが仕事から離れ、解放された雰囲気の中で交流が生まれ、助け合いの友情が生まれるクラブを作りました。これがロータリークラブの始まりです。

なお5番目は、米山さんとは言いますと、中学生の頃より全国的に読まれていた同人雑誌「新才新誌（えいさいしんし）」の中で、夏目金之助（後の漱石）と屢々、文学的才能を競いあっていた様に、文筆にかけては他に負けず劣らずの素養をお持ちでした。

またポールさんも弁護士事務所が軌道に乗りますと、交際範囲も広がりを見せ、プレスクラブの会員になった事により、余暇を利用して短編小説のいくつかを執筆したところ、それらは新聞社によって掲載され、これが当時の有名人の目にとまり、弁護士事務所は益々

多忙となりました。

6番目は、米山さんとポールさんがより奇しき因縁で結ばれていると思います事は、米山さんが大正天皇の御裁下のもとに、大正6年10月、日本政府特派の財政経済委員として選ばれて渡米しました。その目的は、うち続く第一次世界大戦の勝利の可能性はアメリカの動きに関わっていることから、早急に現地の実情把握をなし、日本の確たる政治方針をうち立てる必要がありました。

なお、当時の米山さんが無位無官でありながら委員に選ばれたのは、米山さんが財政金融通であり、外国との交渉に抜群の力を持っていることが広く世間に知られていたせいだと思います。

その米山さんがアメリカのある街で、豪華な客船が二隻、停泊しているのを見て不思議に思い、あれは何だと港に居た人に聞いたところ、R・Cの世界大会がイギリスで開かれるので、それに参加するアメリカの会員のために用意されたものだと聞かされまして、R・Cと言うものに多大な関心を寄せられました。

その後、米山さん一行は、全米石油生産地としてトップクラスのテキサス州ダラスを中心に南部の年を視察しましたが、その折ダラスには三井物産の支店がありました。米山さんはそこから色々な情報を得ようと立ち寄りまして、その支店長の福島喜三次（ふくしまきさんじ）さんは、ダラスのR・Cの会員であり、滞在中に定例の昼食会があるので出席してみないかと誘いました。

米山さんはゲストとしてR・Cの例会に出席しましたが、そこでは色々な職業の人達が仲良く協力し合いながら、公益のために活躍しているのを見聞きしまして、日本にもこのようなクラブを作りたいと思いながら、大正7年2月に帰国されました。

なお都合のよいことに、その翌年には福島支店長が東京本社勤務となりましたのでR・C結成の動きが活発となり、大正9年10月20日東京銀行倶楽部に於いて、会員24名の東京R・Cが発足しました。

そればかりではなく、ポールハリスさんは昭和10年2月マニラで開かれた太平洋地域大会への途中に日本へ立ち寄られましたので、齊藤実元首相や徳川家達公爵と共に、米山さ

んは心からなる歓迎会を催されました。

次に7番目は、お二人ともに静かにこの世から旅立っておられます。

1) 佐々木邦さんの伝記によりますと、米山さんは終戦の年の9月4日、已むに已まれぬ気持から病をおして貴族院議員として国会に登院されました。それが病状の悪化をもたらし、翌日に東京大学付属病院に入院されたものの、前立腺肥大は癌腫瘍と化し、手当の仕様もなく12月には長泉村の別邸に帰られましたが、昭和21年4月28日病み衰えてもはや終焉が近づいたと感じられた時、自分の生涯についてお礼を言いたいから起こしてくれと言われ、布団の上に坐り直して、その場にいた春子夫人を初め、身内の人達は感謝の言葉を述べられた後、神に対して暫く黙禱を捧げられました。その後少し眠るからと言って横になったまま、永遠の眠りについてと言われています。

2) また、ポールハリスさんの死亡直前の様子350頁からなる「ポールハリス、偉大なる奉仕の先覚者」にも記載がなく、ロータリー文庫に問い合わせても答えが出ないままでおりましたが、宇部R・Cの松本昇さんというお医者さんが、エバンストンのR・I事務所に問い合わせたところ、「心臓が悪く、かなり長い病の後、睡眠中に静かに死亡した」との返事がありましたので、松本さんは恐らく睡眠中の急性心不全で、それが心筋梗塞であったかどうかは分からないとロータリーの友誌に載せております。

なおまだ少し時間がありますので、この間話が出来ませんでした「三井報恩会」のあらましを話しますと、昭和7年3月5日、5・15事件があった年に、三井合名会社理事長をしておりました団琢磨(だんたくま)さんは日本橋の三越デパートよりにあった三井本館入口で「ひとり肥え太る財閥は許すまじ」と叫ぶ血盟団員菱沼五郎(ひしぬまごろう)の手によって射殺されました。

これに衝撃をうけた池田成彬(いけだしげあき)筆頭理事は、「我々は大資本の上にあぐらを掻いてはいないのだ」ということを世間に知らしめようと、三井財閥の11家から3,000万円、これは谷口宏文さんの伝記に記載されたところによりますと、平成6年の時価にし

て800億円の大金を引き出し、昭和9年3月米山さんを理事長とする三井報恩会が発足しました。

米山さんは他の要職から退き、「おのれが他より施されんと希う如く、他に施せ」を実践するために、約10年のうちに行われた助成事業は件数にして3,922県、毎月平均33件に及んでおります。

具体的には医療の分野ではハンセン病(らい病)に取組み、3,000床の増床をしましたが、それがために街に徘徊していた患者を悉く収容する事が出来ました。また肺結核の蔓延に対しては、結核療養所の増設と同時に恩賜財団済生会病院を含め27ヶ所、また精神病院を16ヶ所増設しました。

それと社会福祉の分野では養老院の新設と拡充が33ヶ所、母子ホームの増・改築が39ヶ所、なお貧困者対策として職業紹介所、授産所らの設備拡充は66ヶ所を数えております。

なお東北の農村を始め、各地の農村経済のおちこみに対する助成や、学術研究に対する援助など多岐に亘っております。

最後にお話ししたい事は、米山さんが昭和9年3月に三井報恩会を引受けられてから7年が過ぎた昭和16年以後、終戦の年まで毎年欠かさず、病院へ入退院を繰り返しておられますが、これは自分の体のことはものともせず、東北から沖縄まで、くまなく日本中を慰問と視察とを繰り返された過労のせいだと思います。その奉仕の熱意には頭がさがる思いがします。

なお米山さんが何故長泉村下土狩(しもとがり)と鶴見の總持寺分骨埋葬されているかと言いますと、長男の東一郎さんが亡くなった折に、当時米山さんは東京の青山に住んでいた事と、宗派が曹洞宗であったことで總持寺に埋葬されました。

よって2つのお墓を持つことになりました。(広い墓地の中で、お墓を探す様な時には私が地図を持っておりますのでコピー致します)

#### ■次週の卓話

##### GSE 派遣メンバー卓話

北瀬 達也様(横浜鶴峰RC)

難波 美紀様

週報担当 田川 富男